JMR

日本宣教ニュース

NO. 7　　2016 年 1 月

東京基督教大学
国際宣教センター
日本宣教リサーチ

発行人 山口 陽一

「この福音は、あなたがたが神の恵みを聞き、それをほんとうに理解したとき以来、あなたがたの間でも見られるとおりの勢いをもって、世界中で、実を結び広がり続けています。福音はそのようにしてあなたがたに届いたのです。」（コロサイ 1：6）

【巻頭言】

「散らされた民の祝福」

日本福音同盟総主事　品川謙一

内戦が続くシリアの首都ダマスカスはサウロが回心した町であり、多くの難民たちがトルコ(小アジア)経由でギリシャに渡っていくルートは、まさに初代教会が福音を伝えていった道です。難民たちが命がけで海を渡り国境をこえていく姿が初代教会の宣教者たちに重なります。

実際、世界宣教のスタートは迫害でした。ペンテコステの出来事から聖霊の導きによって力強く福音を伝えていった初代教会でしたが、その働きはエルサレムに留まっていました。使徒 1 章 8 節の「ユダヤとサマリアの全土で、また、地の果てにいたるまで、わたしの証人となる」という宣言は成就しないままでした。それが現実になったのは、ステファノの殉教に続く大迫害によってでした。散らされて難民となった人々が、行く先々で福音を告げ知らせたことが世界宣教のスタートとなったのです。

キリスト教会の歴史を振り返ってみても、教会が大きくなったり安定した時代には、往々にして教会は内向きになり、福音宣教の力は弱まりました。むしろ小さく弱い教会が、迫害に晒されながら必死に祈り、主イエスの十字架の愛に突き動かされて、神の義を人々の中で生きていく時、人々はその真理に打たれ、キリストのもとに立ち返るということが繰り返されてきたように思います。

昨年 10 月に参加した国際会議で、イラク、シリアから難民が押し寄せているヨルダンの難民キャンプのレポートを聞きました。過酷な戦闘の中を逃げてきて、PTSD を発症するなど深い心の傷を受けている人々も多い中、難民キャンプで初めて福音にふれ主イエスを受け入れる人々が起こされているということでした。自分の弟を殺した IS 戦闘員を、イエスの十字架の愛のゆえに赦すと語る難民女性のビデオは心を打つものでした。

「教会がもっと大きかったら、もっと安定していたら何かができる」という発想はまやかしです。むしろ迫害で「散っていった人々」、つまり難民となった神の民が「福音を告げ知らせながら巡り歩いた」のです。東日本大震災では教会がある意味強制的に地域社会に放り出されました。そこから人々に仕え、主の愛を分かち合う関わりが生まれてきています。これも散らされた経験だったかもしれません。宣教の閉塞感、行き詰まりが語られる時代、散らされ難民となった初代教会の民が経験した祝福を、私たちも経験させていただけるよう祈っていきたいと思います。

【ＪＭＲレポート】

今回のＪＭＲレポートとしては、日本ローザンヌ委員会主催シンポジュームシリーズ「包括的な日本宣教を考える」Vol.6　の内容を、掲載いたします。
また、他宗教に関する情報を、今回も「中外日報」のオンライン情報から、一部抜粋して転載させていただきます。（記 柴田初男）

◆ 日本ローザンヌ委員会主催シンポジュームシリーズ　◆
「包括的な日本宣教を考える」Vol. 6

１．日　時：2015年11月7日（土）13:30～16:30
２．場　所：お茶の水クリスチャン・センター508号室
３．テーマ：**「宣教における一体性を目指す、キリストの体の内部における協力」**
～キリスト教学校と地域教会の協力～
４．講師＆パネリスト
・シュー土戸 ポール氏（青山学院宗教部長・宣教師　青山学院大学准教授・宗教主任）
・野田 沢氏（日本キリスト教団 学生キリスト教友愛会主事）
・水口 洋氏（玉川聖学院 中高等部長）
・本間 咲子氏（玉川キリスト中央教会　伝道師）

【主催・後援】主催：日本ローザンヌ委員会
後援：ＤＲＣnet、玉川聖学院、青山学院宗教センター

◇　開催の趣旨
子どもが少ない、若者がいない。これが日本の教会の現状です。しかし、実は若者とキリスト教の接点はあります。その一つがキリスト教学校です。私立学校数の10％余りを占めるキリスト教学校と地域教会を「つなぐ」ために、今何が必要なのでしょう。共に現場からの発題を聞き、小グループでの対話によって突破口を探って、10 年後のキリスト教界に良いインパクトを与えましょう。

◇【講師】シュー土戸 ポール氏（青山学院宗教部長・宣教師　青山学院大学准教授・宗教主任）

１．日本の教会の課題
・大学のチャプレンとして、学生たちに教会に行くように勧めている。しかし、多くの教会では、中高年は多いが若者がいない。学生たちにとって教会の礼拝は、異文化体験であり、年寄りばかりで二度と教会に行きたくないないと言う。
・日本の教会は、現状のままでは高齢者の集まりになりつつある。どうすれば若者のための教会、若者たちの教会になることができるか。
第一に、日本の教会の礼拝は、40年位前のアメリカ人の礼拝スタイルをそのまま行っている。新しいスタイルを取り入れることができるか、若者の文化に対応できる教会を作れるかが問題。使徒15章のエルサレム会議がよい例。
第二に、若者から見た時に、日本人としてのアイデンティティが福音を受け入れる障壁になっている。キリシタン禁制の歴史的な経緯もあり、キリスト教は日本人のアイデンティティに反するという意識がある。日本人なので、洗礼を受けることは出来ないと考える学生がいる。
・教会は、健全な愛国心を証しする責任がある。日本の国が神から愛されていることを

伝えることが必要。教会が、日本を愛する教会となることが必要（ﾖﾊﾈ3:16）
・また、学生たちは、教会に重い雰囲気を感じており、希望を感じ取ることが少ない。

２．キリスト教学校の現状と課題
・教職員、学生・生徒にキリスト者が少なく、世俗化が進み、キリスト教精神を維持していくことが難しい状況にある。また、少子化と厳しい競争環境にあって、経営面においても厳しい状況にある。
・学校は教会への架け橋であり、教会にはなれない。キリスト教学校は、教会を必要としている。キリスト者の教職員をもっと送り出して欲しい。そのための協力関係の構築が必要。

◇【パネラー】水口 洋氏（玉川聖学院 中高等部長）
・私立学校の１０％がキリスト教学校。明治期の宣教師たちが人格教育を行って来た。戦後、ミッションスクールがブランド化した。それとともに教会との結び付きが薄くなり、キリスト教主義学校として、キリスト教の魂が失われていった。それを教会は冷ややかに見ていた。
・課題として、①経営の問題：地方では私学に子供を行かせる余裕のある家が少なくなっている。②キリスト者の教員が少ない：教会がキリスト教教育に重荷を持ち、人材を送り込んでいるか。③道徳の教科化や日本会議の影響力等、日本の学校が置かれている状況への洞察の欠如、が挙げられる。
・玉川聖学院は、80％がクリスチャンの教師。福音の真理を教育の言葉に置き換えて生徒たちに教える努力をしている。
・子供達に体験を通して経験化することを行わせている（震災後のボランティア等）。教会の中には、そのような資源があるのではないか。そこに生徒たちを送り込むような連携が必要（年寄りの話を聞く等）。
・学校でどのようなことを行っているのか知って欲しい。そして、次の世代につなぐことができるよう、祈って欲しい。

◇【パネラー】野田 沢氏（日本キリスト教団 学生キリスト教友愛会主事）
・教会の方が学校を切って行った面があり、悔い改めることが必要。YMCA,YWCA がＣ抜きにならないよう祈ることが必要。
・学校に若者がいるからつながろうとするのではなく、若い人の将来を考えて、キリスト教学校に送り出すこと。台湾の教会では、教会の中にカラオケを作った。組織の維持拡大のためではなく、柔軟さと若い人を思う心が大切。

【文責：柴田 初男】

他宗教に関する新聞記事から
【2015年10月～2015年12月】

改革迫られる天台宗一隅運動
（2015年11月6日付　中外日報）

先頃開かれた天台宗の第133回通常宗議会の代表質問で、与党・道興会幹事長の辻井芳道議員が「一隅を照らす運動」についてただした。1969年の運動発足当初から一貫して、僧侶や檀信徒がそれぞれの立場から行う社会奉仕活動等を通じて、宗内だけでなく、広く社会に伝教大師の教えを敷衍することを目指してきた。
しかし、辻井議員は、46年活動を続けながらも、いまだに宗門内だけの運動にとどまっている現状を憂慮した。2019年の運動発足50年を控え、宗門の基幹に位置付けられてきた運動は、抜本的な改革が迫られているのではないだろうか。（河合清治）

宗門外へ広がらず

辻井議員は「運動の会員は天台宗に関わりのある人が中心。発足当初の一般の人も運動の理念に賛同するなら、宗派を問わず実践してもらおうという趣旨はどうなったのか」と指摘した。

運動発足以来、総本部が会員（主に檀信徒）を統括し、活動を主導していたが、05年には活動の宗門外への広がりを願い、全国約3千の寺院を支部として会員は寺院支部に所属し、地域に密着した活動を展開することで、宗門外の人々にも運動に参画してもらえるようにした。

木ノ下寂俊宗務総長は「運動はそれぞれの人が、それぞれの立場で、世の中に貢献するもの。各寺院はその最前線で、僧侶は率先して実践する立場。運動発足50周年に向け、当初の精神、原点の再確認をしていきたい」と語った。

発足当初の理念再確認を

その一方で横山照泰・一隅を照らす運動総本部長は宗議会中の答弁で、「災害時の募金活動や国の内外のボランティア活動が目立ち、運動は救援活動だと理解している人も増えてきた」と述べ、運動が当初の理念から乖離し、ある特定の方向に向かいつつあることを懸念した。

また、各地の運動推進大会が法要と講演を中心として開かれるなどマンネリ化も指摘され、参加者が一部の宗門人に固定してしまっていることも問題となっている。

木ノ下宗務総長の言う「運動発足時の精神、原点の再確認」のためにクリアしなければならない課題が山積している。

しかし、そんな中、明るい兆しもある。01年に始めた全国の寺院支部への活動助成の申請件数が今年初めて募集枠の40件を超えた。総本部では、活性化策の一つとして寺院支部への活動助成を行っており、経済基盤の小さな支部でも無理なく活動してもらえるよう、申請のあった支部に対して年に1度、講師招聘費用など6万円を助成している。

今年、滋賀教区では5支部が助成対象となり、10月31日に大津市で開かれた第19回運動推進大会で、横山総本部長から各支部へ認定証が伝達された。

助成対象となったのは子ども相撲や、念仏講、落語会など、いずれも規模は小さいながらも宗門外の人も参加しやすい、地域に密着した地道な活動。これらの行事に地域の人たちに参加してもらい、交流することで伝教大師の忘己利他、一隅を照らす精神を広めようとしている。

対象となった寺院の住職の一人は、「一見、運動と関係なさそうな行事でも、宗祖のみ教えを一人でも多くの人に伝えようという一隅運動を意識して活動することが大切だと感じました。ささやかな活動ですが、積み重ね、宗門外に広げていきたい」と話した。

◇ 宗教は社会を支える柱と語る
思想家　内田樹さん(64)

「戦後問題」は「宗教問題」

戦後70年――。日本はあの敗戦から何を学んだのだろうか。「戦争のできる国」へ進もうとしているこの国の現状に鋭い批判の目を向ける。
（西谷明彦）

○　司法、医療、教育と共に、宗教を社会を支える4本柱の一つに挙げられていますが、日本人の宗教に対する関心は他の三つに比べて低いようですが。

内田　例えば、内戦やクーデター、天変地異で社会秩序が崩壊したとします。生き残った人たちが集まってまずやることは、死者を弔うことです。そこからしか共同体の活動は始まらない。
「死者」という概念を持ったことで人間は他の霊長類と分岐した。サルは生きているサルと死んだサルを区別しますけれど、「死者としてのサル」の概念はない。だから墓をつくらない。

死者はもはやこの世には存在しないけれど、「存在するとは別の仕方で」生きている人間たちの振る舞いに影響を及ぼす。「あの人が今ここにいたら、何と言うだろう」「私の振る舞いをどう評するだろう」ということが規範となって、生きている人間を支配する。

○　確かに、「靖国問題」などにもそういう側面がありますね。

内田　先の大戦でもアジアではたくさんの人たちが亡くなりました。特に日本軍に侵略され、支配された中国、朝鮮半島の人たちは日本の今の振る舞いに対して「こんなことを許したら死んだ人々に合わせる顔が無い」と思っている。靖国神社に首相が参拝しようがしまいが、現実の中国、韓国社会には何の実質的な影響もない。でも、彼らがそれを許せないと感じるのは「死者がそれを許さない」という信憑が深く根付いているからです。

今、日本で起きている外交上の「トゲ」は、我が国が戦後70年、戦争の死者たちを正しく弔ってこなかったことの負債です。日本の戦後問題は、ある意味では宗教の問題なのです。敗戦の問題、侵略の問題の宗教的意味、死者たちをどう鎮魂するかという問題に正面から取り組むことを怠ってきた結果なのです。

鎮魂とは死者について語ること

内田　鎮魂儀礼というのは、どんな社会でもそうですが、死者がどんな人生を送り、どういう経験をし、何を成し遂げ、何を残し、そしてどのように死んだのか、それを詳しく語る。別に大げさに褒めたたえることも要らないし、神格化して顕彰する必要もない。ただひたすら語る、それが鎮魂の儀礼になるのです。

例えば源平合戦の死者の鎮魂のために『平家物語』をはじめとする膨大な物語が紡がれています。戦国時代の死者たちについても無数の物語が語られ、それは戊辰戦争の頃まで続きました。それらの物語では、常に敗軍の死者たちが主題でした。

○『平家物語』はまさに敗者の物語ですね。

内田　敗者として無残な最期を遂げた人たちが「祟り神」にならないようにすること、それが鎮魂の物語の人類学的な最優先課題ですから、何よりもまず無残な死を遂げた人々について語る。幕末でも、物語の多くは勝者ではなく、敗者であった新撰組や会津藩について語りました。子母沢寛や司馬遼太郎がしていたのは、国民的な追悼の儀礼だったと思います。

○ 先の大戦の死者にはそういう弔いがなされていないと。

内田　吉田満、大岡昇平、野間宏、五味川純平、大西巨人らが無残な死者たちについての物語を戦後すぐから1960年代にかけて書きましたが、それも自国の死者たちについてだけの物語でした。アジアの死者たちの鎮魂の物語を書いたものはほとんどない。自国の死者たちの無残な死についての物語も64年の東京オリンピックの頃を境に語られなくなった。高度経済成長期に入ると「もういいじゃないか、戦争のことは。これからは未来について語ろう」ということになってしまった。

○ それを踏まえ、「戦後70年」を機にやるべきこととは。

内田　何よりも戦争経験の総括だと思います。まず基本的には事実をありのままに物語ること。先にストーリーを組み立てて、それに当てはまる都合の良い事実や資料を探すのではなく、中立的なまなざしで起きたことを愚直に記述することです。そして、どうしてあれほど日本は徹底的に負けたのか、敗戦の総括が不可欠です。

○ 近著『街場の戦争論』では、42年のミッドウェー海戦の敗戦を機に講和していれば、との仮説を立てておられます。

内田　一つの想像力の訓練のつもりで書きました。42 年段階で講和していれば、広島、長崎への原爆投下や東京、大阪など都市部への大空襲などはなかったし、玉砕や特攻もなかった。日本の山河も街並みも温存された。戦死者のほとんどは最後の 1 年間に死んだのです。

○　どうして講和の決断ができなかったのでしょうか。

内田　そこを研究しなければならないと思います。戦史研究ではなく、政治論、官僚論、メディア論などあらゆる分野で、なぜ「ふつうの敗戦」ではなく「破滅的な敗戦」を日本人は選択したのかを問うべきです。僕はそこに、現在にまで続く日本の最大の問題があると思うのです。

○今の日本人にそのことが可能だと思われますか。

内田　危機的な状況になっています。成熟した国民として敗戦の経験に真摯に向き合う構えが、特に社会の指導層に全く見られない。

○　敗戦の総括が不十分なまま「戦争のできる国」へ向かうとの批判があります。そして、そのような安倍政権の支持率は低くはない。

内田　安倍支持の底流にあるのは反米感情です。戦後の日本は反米感情を制度的に抑圧されてきた。アメリカとの戦いで300万人の人たちが亡くなったにもかかわらず、戦後の日本はその勝者に従属してきた。反米ナショナリズムの情念はベトナム反戦闘争を最後に行き場を失ったままでしたが、それがアメリカへの過剰な、自滅的な従属という奇妙な病態をとるようになってきた。

○　「ふつうの敗戦」を選択していれば戦後、日本の歩んだ道は違ったものになっていたと。

内田　ふつうの敗戦国は「次はどうやって勝つのか」という問いにまず向かいます。その上で選択された「敵国との同盟」であれば、それは冷静でリアルな外交戦略です。でも、日本は違う。あまりにも徹底的に負け過ぎたために、「次はどうやってアメリカに勝つか」という問いを立てることさえできなかった。アメリカへの従属はアメリカに命じられたもので、日本が選んだものではありません。この事例に向き合わずに、あたかも主権国家のようなふりをして対米従属を続けてきた。その欺瞞が日本人の国家戦略を根底から蝕んでいる。

○　沖縄の基地問題なども、そうした視点で捉えていく必要があるのでしょうか。

内田　日本に蓄積している反米感情に今、一番敏感になっているのはアメリカだと思います。沖縄の基地問題でアメリカが妥協的になってきているのは、これ以上話をこじらせて反米感情が全国に飛び火すれば、日本人に潜在する反米感情がコントロール不能に陥るリスクがあることを知っているからです。

韓国やフィリピンなど同盟国での米軍基地は縮小されています。アメリカの西太平洋戦略の中で見れば沖縄の米軍基地の戦略的重要性はそれほど高いものではない。計量的な論議を詰めてゆけば基地縮小は可能なはずです。でも、そういうレベルの論議に持っていくことが日本政府にはできない。それは、米軍の駐留は主権国家としての日本が主体的に選択した国防戦略であるというそに、政府がしがみついているからです。

○　しかし政権は普天間基地の辺野古移転にこだわっています。

内田　安倍首相は沖縄の基地問題を「反米の火種」として利用しようとしているのではないかと私は疑っています。アメリカに過剰にへつらうことで、国内の反米感情をかき立てながら、その一方で安倍首相は靖国参拝や歴史修正主義的発言などによって小まめに「アメリカが嫌がること」をしています。「対米従属を通じての対米自立」というのが伝統的な自民党の外交戦略でしたが、安倍政権の場合は「過剰で屈辱的な対米従属を通じて国内に反米機運を醸成し、これに乗じて対米自立を果たす」という、さらにこじれたものになっている。

○　そういう状況において、宗教者が果たすべき役割は。

内田　今の日本を突き動しているのは知性や戦略ではなく、抑圧された情念です。それが制御しがたい暴力性や攻撃性として露出してきている。戦後70年、制度的に抑圧されてきたものが床下で腐敗して、腐臭を放ちながらガスを噴出し始めている。「戦後レジームからの脱却」というのは、その抑圧されたものが爆発的に回帰してくることです。

社会や人間の内面に潜むそうした暴力的で邪悪なものを抑制し、鎮めることこそが今日の宗教の本義だと思います。

○　今日の宗教界、宗教者にその力があるでしょうか。

内田　その力がなければ困ります。今の政治過程は、見方によっては一種の「霊的な戦い」です。日米関係も、日韓・日中関係も、それぞれの国の死者たちをどう弔うのかという霊的な課題が外交関係に重くのしかかっている。霊の問題を扱うのは宗教者の仕事です。戦後70年で、今ほど宗教者に対して、政治的・市民的な成熟が求められている時代はなかったと思います。

（2015年7月15日付 中外日報）

（ほっとインタビュー）

【文責：柴田 初男

各新聞記事から
【2015年10月～12月】

※カトリック新聞、キリスト新聞、クリスチャン新聞については、オンラインで電子版が配信されておりますので、「日本宣教ニュース」での掲載は、今回号から打ち切りとさせていただきます。

◇ **カトリック新聞**
http://www.cathoshin.com/
◇ **キリスト新聞**
http://www.kirishin.com/
◇ **クリスチャン新聞**
https://kotobasha.e-manager.jp/

各雑誌記事から
【2015年10月～12月】

10月

「百万人の福音」

◇ **特集：聖書の「食」**
１．聖書の中の「食」風景・名画面集、２．うちの教会の愛餐会、３．聖書的食育、４．「食」する者として造られた人間、◇ **旬人彩人**：自然食レストラン 工藤元貴・亜紀子、◇ **あしあと**：カナダ先住民宣教師　鈴木教子、◇**連載**：①マンガ　ななさんぽ、②いのちのことばが人生を拓く、③ひきこもり院長のつれづれ日記、④侍クリスチャンのススメ、⑤ひかりの道すじ、⑥ぷんぷんのこと、十月、⑦聖書メガネで映画を見れば、⑧ブルーグレイの空の下で、⑨この町この教会：川崎戸手教会、⑩教会津々浦々：群馬県・兵庫県、⑪ブルーリボン・レポート38、⑫いのちの砦 34、⑬明日へのピクニック　森住ゆき

「信徒の友」

◇ **特集：日本社会のキリスト教**
１．霊性とは何か、２．霊性が養われる現場から、３．生き方でキリストを伝える、◇ **特別読物**：１．『おふぃす・ふじかけ賞』授与式レポート、２．座談会　長崎 平和への祈りと歩み、◇ **連載**：①教会のトピックス、②わが家の“わんにゃん”！、③献堂しました、④祈りの大地、⑤ひかり＆しおん、⑥キリスト教と香りの世界、⑦聖なる光と祈りの空間、⑧シネマへの招待『先生と迷い猫』、⑨みことばにきく、⑩預言者の声に聴く、⑪あらすじで読むキリスト教文学、⑫私のがん体験記、⑬伝道推進室だより、部落解放センターだより、⑭キリスト教学生寮のいま、⑮被災地からの問い、⑯マンガ キリスト教入門、⑰神に呼ばれて［聖職者編］［信徒編］

「福音と世界」

◇ **特集：戦後70年の教会と神学4　ボンヘッファー没後70年** １．D・ボンヘッファーと「バルメン宣言」、２．エキュメニズムとボンヘッファー、３．「聖書的な諸概念の非宗教的な解釈」の構想、４．ボンヘッファーと出会って、５．ボンヘッファーと説教、６．『獄中書簡集』の影響史をたどる、◇ **戦後70年「安倍談話」を韓国で読む**―１．変わりばえしない安倍談話、２．これは宗教的批評の対象だ、◇ **連載**：①聖書 味読10 「82円の贈り物」―ヨハネの手紙2　1章12節、②レヴィナスの時間論『時間と他者』を読む、③中国教会通信11.　華人教会とは何か？、④ドイツ教会通信5　教会とお金の話、　⑤宣教学・事始め6　宣教とは愚かな働きである、⑥CHRISTIAN ICON キリスト教美術案内7、⑦現代日本の福音（エヴァンゲリオン）14.『千と千尋の神隠し』、⑧南島キリスト教史入門12　社会へのまなざしと“底辺”へ向かう志(1)、⑨詩編の思想と信仰128 詩編122篇（5）、⑩佐藤優のことばの履歴書19 超越的感覚、⑪私のごすぺるくろにくる46（最終回）2015　われ問う、⑫表紙画について

「舟の右側」

◇ FEATURE：１．讃美歌うたいのフォークシンガー　岩淵まこと、２．ステージから「神の愛」が溢れ出す　ナイト de ライト　岡山で薬物乱用防止キャンペーン　ナイト de ライトらがコンサート　◇ SERIES: 教会と教会堂「東八幡キリスト教会」、◇　**話題の一書**：『神はなぜ戦争をお許しになるのか』DM ロイドジョンズ著　◇**連載**：①神様に呼ばれてどこまでも！、②必要なことはただ一つ、③聖

書に見る神の国の福音、④被造物管理の神学シリーズ その12、⑤旧約聖書の誤解・正解・分からない、⑥夫婦の癒しと回復を求めて、⑦ジャンル別新聖書解釈入門 、⑧月ごとに、週ごとに、⑨風知一筆、⑩一押し書評『聖書の祈りが私の祈りになる』

「ＨＡＺＡＨ」

◇ 特集： 主の働き人

１．70年後に主が備えた日中の架け橋、２．ひとり子のいのちを救うために、◇魂の大収穫、◇神の民を目覚めさせる集会、◇デイビッド　テイラー　癒しと奇跡の集会開催される、**◇連載：**①創造と福音 、②過越祭（ペサハ）、③聖書翻訳こぼれ話2、④今聖霊が教会に語っておられること17、⑤晴れる家 café で福音を伝える、⑥変わる教会の形、⑦「世界の教会は世界宣教の使命を完成する」と宣言、⑧愛とロマンの地、⑨あなたの舌を制御しなさい

「福音宣教」

◇ 特別企画：神を愛し、人を愛す⑧ １．違う立場の人たちとつながっていく、**◇ 番外編：希望への物語**　１．苦難の意味（下）、**◇フォーラム：**１．戦後七十年の夏を振り返って　２．追悼　山田經三師、３．教皇フランシスコと共に、**◇月間テーマ：人生の秋**　1. 老いと病と司祭職―東京教区「ペトロの家」の経験から　**2. 老いと慈しみ―**深沢七郎『楢山節考に』寄せて、3. ともに生きる―今、介護の現場で働いて、**◇連載**：１．奉献生活への招き⑨　フランシスコ会、２．一人ひとりが大切にされる社会に向けて⑨　六十九年目の真夏に考える、３．キリシタンの生き方に学ぶ⑨　復活キリシタン教会信徒の信仰を通して、４．みことばが互いに響き合って―ことばの典礼を生活に生かすために、年間27主日～年間30主日、５．食卓からのおもてなし―祈りをこめる

「福音と社会　No. 281・282合併号」

◇第52回カトリック社研夏季セミナー特集

「金と力」を超える価値を見出すために：「安保」と「成長戦略」で強気の安倍政治が置き忘れている「それを超える価値」を示そう、１．「歴史の危機」おける新しいシステム構築のヒント、２．「地の塩」「世の光」となるために

どう働くか、３．「金と力」を超える福音の道、**◇特別寄稿：**資本主義の衰退と＜アベノミクス日本＞の行方、**◇ 鐘桜**：「贅沢は素敵だ」！？、**◇ カトリックアイ**：１．武力以外の国際紛争解決法を追求しよう、２．ご存知ですか？時局マンガの深慮遠謀、**◇ バチカンレポート：**１．教皇の南北米大陸・司牧の旅の足跡、「キューバと世界は“未来”へ門戸開放を」、２．教皇が中南米3か国で明かした現状打破への秘策、**◇ 祖母と孫が語り合う「戦争と平和」㉙**「平和で簡素な生活に戻れ」と説いた人　ヘンリー・ディヴィッド・ソロー、**◇ 連載ノンフィクション**：１．封印された殉教㉙、２．バチカンと戸田師と憲兵と③、**◇読者の考察：**1. 東日本大震災の被災地、4年半後の変容、２．発達障害者の福祉に関して福音的救済策を考える

「羊群」

◇今月のテーマ：クリスチャンの戦い

１．特別寄稿：「主と共に 50 年」、**◇連載：**①アルコイリスからの便り「日本の霊的開放を宣言する年 2015」、②イエスのたとえ話「十人のおとめのたとえ」、③一緒に学ぼう創世記 49 章～50 章、④信仰寸言「自分だって同じ」、⑤羊群社発行図書のご案内、⑥10 月の祈り「世界のために」、⑦今日のみことば「エレミヤ、テサロニケ II」、⑧羊飼いコラム「神の家族としての教会」

11月

「Ｍｉｎｉｓｔｒｙ」

◇　特集：高齢化なんか怖くない

必要なものは備えてくださる。時流に流されない信仰の強み、高齢者にやさしい教会　１０項目、・こうして向き合え「高齢化」への直言　“数的データにとらわれるな！”・いよいよこれからが本番ですよ、**◇レポート：**ドイツ・ポーランド巡礼の旅　**◇ インタビュー：**見えてきた教会の原点　洗礼を授けることだけが宣教ではない「諏訪栄治郎司教」、

◇**連載**：1.「教会教育」再考　高齢者との関わりから―戦争体験の分かち合い、２．①礼拝「ことば」学ゼミナール　祝祷、②祝祷を創る、③ 説教鑑賞 「待降節第一主日説教」、④ワタシの礼拝論　礼拝改革試論（5）聖餐のシェイプアップ（その1）、⑤“中堅”説教者奮闘記―人格的な交わりの中で「ことば」が生きる、⑥TOPICS 人物で見る中国キリスト教、⑦マンガ「こちらミニスト編集部」紙媒体は生き残れるか、⑧リレー連載「牧師たちの日常」、⑨電脳牧師に訊く IT 活用術、⑩雑誌拾い読み、⑪新刊さんいらっしゃい「スピリチュアルペインとそのケア」ほか、⑫専門書店売り上げランキング、⑬掲示板　読者からの手紙、⑭空想神学読本「スプリガン」にみる多神教世界観と祈り

「季刊　教会」101号

◇ **巻頭論壇**：キリストの復活、我々の復活、◇ **ＱＫ論文**： １．カルヴァンと人文主義、２．アウグスティヌスからカルヴァンへ―同じ土俵に立つ両者の聖書解釈論、３．フォーサイス神学の魅力と今日的意義―教会が力を取り戻すために―、４、救済への問い　その1＜救済のニーズと福音の到来＞　◇**御言葉の味わい**(18)：１．旧約編「コレヘトの言葉」、２．新約編「コリントの信徒への手紙 II」、**QK 随想**◇真の創設者、頭なる神、◇時代を共にする、◇主に用いられて生きる喜び、◇主の驚くべき御業―小松教会130年の歩みを振り返ってー、◇恵みに感謝して**◇ウェストミンスター大教理問答リレー黙想、◇本のオアシス**：１．＜わたしを変えた一冊＞渡辺信夫訳『キリスト教綱要』、２．本の道しるべ（ブック・レヴュー）：①上田光正著『日本人の宗教性とキリスト教』、②佐藤司郎著『カール・バルトの教会論』、③土岐健治著『旧約聖書と新約聖書を結ぶもの』、④鳥羽和雄著『教会員のための神学ノート』、**◇聖書霊解**：１．コリントの信徒への手紙二12:11-18A、２．コリントの信徒への手紙二12:19-21、**◇海外ニュース**：来日宣教師たちの中国宣教の夢、**◇牧会九〇話**：牧会の原点を忘れずに

「百万人の福音」

◇ **特集：福岡キリスト教の旅**

１．福岡行くばい、２．北九州エリア、３．筑豊・筑後エリア、４．クリスチャン医師の医療伝道・下稲葉康之さん、５．イエスキリスト神の愛教会　ニューウイングス、６．福岡のキリスト教史、**◇連載**：①マンガ　ななさんぽ　悩んで、歩いて、考えて、②いのちのことばが人生を拓く、③ひきこもり院長のつれづれ日記、 ④侍クリスチャンのすゝめ、⑤ひかりの道すじ、⑥ぷんぷんのこと、十一月、⑦聖書メガネで映画を見れば、⑧ブルーグレイの空の下で、⑨この町この教会：北九州シオン教会を訪ねて、⑩教会津々浦々：群馬県・兵庫県、⑪ブルーリボン・レポート39、⑫Story of the people あしあと 森下辰衛⑬いのちの砦、⑭マンガ　すてきな毎日、⑮マンガ、喫茶ホーリー、⑯コトノハラボセレクション　アロマルームミスト、⑰旅人の歌・短歌・俳句、⑱明日へのピクニック、⑰もぎたてぶどう倶楽部　お便り・BOOK・CD、⑱今月のみことば一句

「信徒の友」

◇ **特集「家族に信仰を伝える」**キリスト教葬儀を通して：１．キリシタン葬儀が与えた衝撃、２．悲しみと慰めと望みと、３．教会葬儀をするための備え、４．証、葬儀を通して、５．真剣な説教と賛美の安らぎ、６．エンディングノートの力、**◇特別読物**：①被爆70年長崎・平和への祈りと歩み、②教会応援企画講師派遣　**◇連載**：①祈り、②教会のトピックス、③わが家“わんにゃん”！、④献堂しました、⑤祈りの大地、⑥ひかり＆しおん、⑦キリスト教と香りの世界、⑧ 聖なる光と祈りの空間、⑨シネマへの招待『裁かれるは善人のみ』、⑩みことばにきく、⑪預言者に聴く、⑫あらすじで読むキリスト教文学　三浦綾子『雪のアルバム』、⑬私のがん体験記、⑭伝道推進室だより、部落解放センターだより、⑮キリスト教学生寮のいま、⑯被災地からの問い、⑰マンガ　キリスト教入門、⑱神に呼ばれて［聖職者編］［信徒編］

「福音と世界」

◇ **特集：戦後70年の教会と神学　5　沖縄とヤマト**　１．「沖縄戦」後七〇年と沖縄の教会、２．戦後日本基督教団と沖縄の関係、３．米国

統治下における沖縄の社会正義神学、４．沖縄のキリスト者女性たち―その働きと問いかけ、５、日本基督教団東京教区北支区の沖縄教区との交流、**◇トレルチが読んだ内村鑑三、◇連載：**①聖書味読11「無名の墓石に思う」―詩編90篇12節、②韓国教会通信12（最終回）韓国教会と神学の行方、③カナダ教会通信6　社会正義を求めて、④宣教学・事始め77宣教Ａと宣教Ｂは矛盾するか？、⑤レヴィナスの時間論『時間と他者』を読む8、⑥CHRISTIAN ICON キリスト教美術案内8　メメントモリ、⑦現代日本の福音（エヴァンゲリオン）15『風の谷のナウシカ』、⑧佐藤優の言葉の履歴書20　宗教間戦争、⑨南島キリスト教史入門13、⑩詩編の思想と信仰129詩編123篇、⑪新約釈義　第一コリント書18（1:10-17）

「舟の右側」

◇ 特集：闇に希望を見いだすとき　１．希望が満ち溢れるために、２．Testimony 谷間にひかり照る、**◇THEOLOGY:** 「のろい」から「祝福へ」、 **◇連載:**①神様に呼ばれてどこまでも！、②必要なことはただ一つ、③聖書に見る神の国の福音、④被造物管理の神学シリーズ（最終回）、⑤旧約聖書の誤解・正解・分からない、⑥夫婦の回復2　夫婦の癒しと回復を求めて、⑦ジャンル別、新聖書解釈入門、⑧月ごとに、週ごとに、**◇一押し書評：**『堀の中のキリストーエンクリストオの者への道』◇**話題の一書**『真実の福音を求めて』◇**風知一筆：**聖霊が働きやすい共同体、第2コリント2章15節

「ＨＡＺＡＨ」

◇ 特集:主の働き人 2

１．70年後に主が備えた日中の架け橋、２．祈りの祭典、**◇連載:**①創造と福音 、②見よ、侮る者たちよ、驚け！、③聖書翻訳こぼれ話3、④過越し祭、⑤「心の一新によって人生は変わる」、⑥シンガポールギャザリング2015、⑦短期宣教の証、⑧荒野が果樹園となる、⑨愛とロマンの地、⑩全ての終わりのために備える

「福音宣教」

◇ 特別企画：対談 神を愛し、人を愛す⑨

１．痛みを共感できない神学なら、それは遊びです、**◇フォーラム：**１．筆に祈りを託して　陶芸家 椿 巌三さん―ベウラ陶房で生きる、**◇月間テーマ：働くこと**　１．母なる教会の願い―社会教説について、２．労働者の信仰は仲間と共に、3.祈り、働き、育てあう

◇連載：１．奉献生活への招き⑩　わたしたちは、ここにいます、２．一人ひとりが大切にされる社会に向けて⑩　誰もが支え合って生きられるような世界とは―山間部で出会った三人の若者と大人、３．キリシタンの生き方に学ぶ⑩なぜ日本ではキリスト教の信徒数が増えないのか―キリスト教が日本で生き残るには、４．みことばが互いに響き合って―ことばの典礼を生活に生かすために　諸聖人～待降節第一主日、５．食卓からのおもてなし―祈りをこめて（21）出向いていく教会

「礼拝と音楽　167号」

◇ 特集：ルネサンスの教会音楽

１．十五・十六世紀の礼拝と音楽、２．ルネサンス期のカトリック教会の音楽、３．宗教改革とルネサンス音楽―同じ倉から新しいものと古いものを取り出す、４．対談　ルネサンス・ポリフォニーの魅力、５．ルネサンス期のオルガン、６、昔の人の音感に近づくためのソルミゼーション、六音階明唱―追加されるｂの心、７、ルネサンス宗教音楽名曲ガイド、**◇年表**　ルネサンスの音楽家**◇報告：**国際賛美歌学会ケンブリッジ大会参加報告（3）、**◇連載：**①読書案内、②ルターと讃美歌（11）、③礼拝とシンボル（6）④主に向かって“新しく”歌おう（1）、⑤歌おう使おう21、⑥教会音楽ジャーナル、⑥主日礼拝に備えて―説教者・奏楽者とともに

12月

「百万人の福音」

◇ 特集：どん底クリスマス　暗闇に届いた光

１．「ひとり」じゃないことを伝えたい」、２．電話で救われるいのち、３．中国　苦難の中のクリスマス、４．おかえり、ビッグ・ジョン、５．どん底に降り立ったキリスト、**◇ 旬人彩人：**輝く子どものいのちに寄り添って、**◇**

あしあと：中華料理人　荘　明義、**◇連載：**①マンガ　ななさんぽ、②いのちのことばが人生を拓く（最終回）、③ひきこもり院長のつれづれ日記、 ④侍クリスチャンのすゝめ、⑤ひかりの道すじ、⑥ぷんぷんのこと、十二月、⑦聖書メガネで映画を見れば、⑧ブルーグレイの空の下で（最終回）、⑨この町この教会：松本聖書福音教会、⑩教会津々浦々：群馬県・兵庫県、⑬ブルーリボンレポート、⑭いのちの砦、⑮マンガ　すてきな毎日、⑯マンガ、喫茶ホーリー、⑰コトノハラボセレクション（最終回）、⑱明日へのピクニック、⑲もぎたてぶどう倶楽部お便り・BOOK、⑳今月のみことば一句

「信徒の友」

◇ 特集：クリスマス－子供からもらう喜び

１．聖夜のプレゼント、２．ページェントがこころの支えに、３．世代を超えて手渡される感動の物語、４．子どもの専門家が選ぶクリスマス絵本、**◇ 特別読物：**１．東京・立川からしだね伝道所、２．平和の働き人、３．部落解放青年ゼミナール参加レポート、４．「エッサイの木」著者対談、**◇連載：**①祈り、②教会のトピックス、③わが家の“わんにゃん！”、④献堂しました、⑤祈りの大地、⑥ひかり＆しおん、⑦キリスト教と香りの世界、⑧ 聖なる光と祈りの空間、⑨シネマへの招待、⑩みことばにきく、⑪預言者の声に聴く、⑫あらすじで読むキリスト教文学、⑬私のがん体験記、⑭伝道推進室だより　部落解放センターだより、⑮キリスト教学生寮のいま、⑯被災地からの問い、⑰マンガキリスト教入門、⑱神に呼ばれて［聖職者編］［信徒編］

「福音と世界」

◇特集：教会は何を・いかに宣教するのか

１．宣教と教会―20世紀の宣教思想史を踏まえて、２．教会を生み出す宣教からの転換―ホーリネス系の一牧師の模索。３．キリスト教を卒業しないと福音の勘所は掴めない、４．教会の「牧会力」、５．先立つ主と共に―福島の教会から、**◇キング牧師の大胆な非暴力、◇長老会神学大学教授会声明**、―光複70年・分断70年に当たって、**◇連載：**①聖書味読12（最終回）I am、②現代日本の福音（エヴァンゲリオン）16『境界の RINNE(Circle of Reincarnation)』、③中国教会通信12（最終回）④ドイツ教会通信6　悲しみに寄り添うカフェ、⑤宣教学・事始め8　(8) 逃げ道を断って、取り組む、⑥　レヴィナスの時間論『時間と他者』を読む9、⑦CHRISTIAN ICON キリスト教美術案内9、⑧南島キリスト教史入門14　人を育む伝道と南島キリスト教の可能性、⑨佐藤 優のことばの履歴書21　パラダイムの交錯と地政学、⑩詩編の思想と信仰130　詩編124篇、⑪表紙画について

「舟の右側」

◇ 特集：エンクリストオの者、１、私が獄中で希望を持つことができた理由、２、我がうちに生きるキリスト、◇SERIES 教会と教会堂、チャーチ・オブ・ゴッド　酒田キリスト教会

◇ 一押し書評『老境の収穫』『神が造られた「最高の私になる」』　**連載**　①神様に呼ばれてどこまでも、②必要なことはただ一つ、③聖書に見る神の国の福音、④旧約聖書の誤解・正解・分からない、⑤主に新しい歌を歌え、⑥夫婦の癒しと回復を求めて―夫妻の回復、⑦ジャンル別新聖書解釈入門、⑧月ごとに　週ごとに、⑨風知一筆、⑩ピリピ3章20節

「ＨＡＺＡＨ」

◇ 特集：7つの山―家族

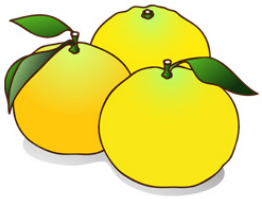
１．「家族の回復」の意味するところ、２、「祈りのミニストリー」を通して広がっていく家族回復の祝福、**◇連載：**１．創造と福音―地球を中枢に据えて創造された宇宙、２．人は蒔いたものを刈り取る、３．聖書翻訳こぼれ話④　宣教学の本質に関わる翻訳の問題、４．過越し祭 VI、５．ダビデの幕屋の回復～日本の大収穫の備えをせよ、６．今、聖霊が語っておられること　最終回、７．第一回宣教セミナー「宣教中心のライフ設計」、８．台湾バナー・チャーチの預言セミナーと献堂式、９．キリストにあって一つになる、１０．愛とロマンの地―日本に霊的覚醒が―、１１．主よ、あなたを泣かせていることをお赦しください

「福音宣教」

◇ 特別企画：対談 神を愛し、人を愛す最終回

１．キリストは、すべての人に働いている　**◇フォーラム：**１．『福音宣教』30年の歩み、２．

パラダイムシフトと福音宣教―新しい戦略の模索のために、３．二十一世紀の信徒使徒職の養成に向けてー仙台教区における「信徒養成講座」の実践例から、**◇フォーラム：筆に祈りを託して**、ほんまもんの旅Ⅱ、**◇月間テーマ：人も自分も大切に生きる**　１．「いのちを無条件に肯定する倫理」にむけて、２．七十二人の集い―引きこもり支援の草の根活動と説明責任、**◇連載：**１．奉献生活への招き（最終回）今、考えるべきこと、２．一人ひとりが大切にされる社会に向けて（最終回）私たちはどこに行くのか　ー現代文明と一人ひとりの居場所、３．キリシタンの生き方に学ぶ（最終回）キリスト教が日本で生き残るには、４．みことばが互いに響き合ってーことばの典礼を生活に生かすために（最終回）　待降節第２主日～聖家族、５．食卓からのおもてなし―祈りをこめて（最終回）主の平和



各教団・教派、宣教団体の機関紙・ニュースから

10 月

１．日独教会青年交流　日独ユースミッション2015、２．ヨーロッパ・キリスト者の集い、３．教区青年担当者会・教育委員会、４．台湾・韓国・スイス協約合同委員会、５．信仰職制委員会、６．部落解放青年ゼミナール、７．事務局報、８．宣教師からの声（番外編）、９．人ひととき

「教団新報 NO.4829 10/24」
（日本基督教団）

１．2015年 秋季教師検定試験、２．予算決算委員会、３．全国財務委員長会議、４．宣教師人事・支援委員会、５．世界宣教委員会、６．被災幼児施設担当者会、７．伝道委員会.８．伝道推進室主催「伝道キャラバン」・福島地区、９．関東・東北豪雨被害、１０．年金特集：2014年度日本基督教団年金局決算報告、１１．隠退教師近況、１２．隠退教師を支えましょう、１３．宣教師からの声（番外編）、１４．人ひととき

「聖公会新聞 NO.721 10/25」
（日本聖公会）

１．大韓聖公会宣教125周年記念礼拝捧げられる、２．社会福祉連盟第56回大会開催される、３．「安全保障関連法」強行採決に抗議文発表、４．減給処分取り消し判決に「感謝」「君が代」伴奏拒否訴訟、５．辺野古埋め立て承認取り消し支持文書（全文）、６．各教区だより：北関東、横浜、北海道、九州、大阪、沖縄、京都、神戸、東北、７．ナルニア巡礼の旅2、８．野の花5、９．エイズ・デー記念礼拝、１０．門前の小僧の辻説法

「キリスト教学校教育 NO.687 10/15」
（キリスト教学校教育同盟）

１．第57回学校代表者協議会、２．第2回中堅教員リトリート（節目研修）、３．第2回大学新任教員研修会、４．第5回中堅事務職員研修

会、５．各地区の夏期行事：東北・北海道地区、関東地区、関西地区、西南地区、６．キリスト教教育者物語

「世の光 NO.781」（日本同盟基督教団）

１．平和をつくる者、２．宣教研究所：ローザンヌ運動40周年企画 「伝道と社会的責任（後編）」、３．カルト問題対策委員会：異端・カルトに深入りしないコツ、４．救いの証し、５．献身の証し、６．教会紹介：東岡山キリスト教会、７．恵流：教会学校の恵み、８．教団ニュース、◇ となり人 社会厚生部だより 第59号、１．信仰の基本、２．心と体を良く保つために(41号)、３．一斉防災訓練に備えて、４．「教会と国家」委員会：8.15平和祈祷会報告、◇ 国外宣教 NO.464、1．予算攻防戦～軽食篇、２．平和への祈り、３．宣教師近況・祈祷課題

「ＪＨＣ　Revival 804号」
（日本ホーリネス教団）

１．「育つということ」、２．「視」過去を、今を、未来を、３．ネヘミヤプロジェクトのこれから 世界に仕える教団・学院・教会、４．宣教を考える：教育局－その①、５．温故知信：武毛教区の源流を尋ねて、６．明日への種まき：武毛教区における取り組み、７．2015年度夏キャンプ報告：①教団主催 新しい中高生キャンプ、②静岡教区主催 光の子キャンプ、③九州教区主催 ファミリーキャンプ、８．宣教局ニュース：①国内宣教「時が来ると実を結び」、②国外宣教：「宣教師の巡回受け入れのお願い」、９．教団本部ニュース

「イムマヌエル教報 NO.831」
（イムマヌエル綜合伝道団）

１．もしも主が私たちの味方でなかったなら、２．創立70周年の都市に新しい力に溢れて、３．聖宣神学院同窓会から：第14回同窓会セミナー・総会 牧師研鑽の時、貴重な交流の時、４．教団運営委員会から：広範囲な働きを愛をもって進める、５．教団創立70周年青年大会を振り返り：全国アンケートの考察と提言２ さまざまな解釈のある献身について、６．国内教会局から：信頼関係 思いと言動、７．ＪＨＡ30周年記念大会 兄弟たちが一つに！、８．創立70周年記念企画「継承」：国外宣教黎明期にあって、９．燭台：39年を振り返ると、**◇広げた翼**：世界宣教局：ケニア・テヌウェク、ザンビア、ボリビア、台湾、１０．聖宣神学院報、１１．公報・消息

「ＪＣＣＪtimes NO.755」
（日本イエス･キリスト教団 時報）

１．五つのパンと二ひきの魚を主の手に、２．ビジョン 2021：幅広い伝道をしよう！、３．協力教会制度：不安から具体的な第一歩へ、４．バイブルキャンプ報告：①北海道地区、②東北教区、③信越教区、④京都教区、⑤大阪地区、⑥中国教区、⑦四国地区、⑧九州地区、４．公報・消息

「アッセンブリー News NO.721」
（日本アッセンブリーズ・オブ・ゴット教団）

１．宣教！その喜び、２．教団の動き63、３．岡本吉衛・純子師 ご夫妻の引退に寄せて、４．新卒レポート 神に仕える、５．中央聖書神学校（ＣＢＣ）掲示板、６．信徒が学ぶギリシャ語 第2回、７．新・祈りのコラム⑮、８．教区情報 vol.7 中国教区、

「JECA フォーラム NO.96」
（日本福音キリスト教会連合）

１．私のコイノニア、２．聖書に聴くコイノニア、３．神の家族である教会、４．交わりの持つ意味、５．共に集まり分かち合うコイノニア、６．福岡＆岩手 Up to Date：①福岡開拓の前進、②被災地の今、７．関東・東北豪雨、鬼怒川決壊浸水と水海道シャローム教会

11 月

「教団新報 NO.4830 11/14」
（日本基督教団）

１．第39回総会期 第4回 常議員会：会館工事・財政・伝道資金を巡り審議、２．社会委員会、３．宣教研究所委員会、４．宣教委員会、５．統一原理問題全国連絡会、６．部落解放センター ドイツ訪問、７．伝道のともしび、８．人ひととき

「聖公会新聞 NO.722 11/25」
（日本聖公会）

１．マリア越智容子新執事誕生、２．ヨハネ塚田重太郎新執事誕生、３．聖公会社会福祉連盟第56回大会、４．教会は歌う、６．各教区だよ

り：沖縄、東北、大阪、北海道、神戸、横浜、九州、７．ナルニア巡礼の旅3、８．野の花6、９．エイズ・デー記念礼拝、１０．門前の小僧の辻説法

「キリスト教学校教育 NO.688 11/15」
（キリスト教学校教育同盟）

１．同志社のキリスト教主義、２．共に課題を担い、共に歩む：新規加盟学校法人４校の紹介、３．第59回大学部会研究集会、４．第7回キリスト教活動担当事務職員研修会、５．本紙がより広く読まれるために：全国公報委員会横浜共立学園で開催、６．公募、７．キリスト教Q&A

「世の光 NO.782」（日本同盟基督教団）

１．祈れ、教師試験受験者のために、２．教職教育部：2015年補教師研修会報告、３．宣教研究所：ローザンヌ運動40周年企画 教会と福祉(前篇)、４．「教会と国家」委員会：長野県東信地区 8･15平和祈祷会報告、５．献身の証し、６．教会紹介：椎名町教会、７．教団ニュース、◇国内宣教 NO.180、１．あなたは大切な人です、２．2015 キャラバン感謝報告、３．デプテーション報告、◇国外宣教 NO.462：１．国外宣教 宣教区の取り組み、２．感謝、３．マイワ語聖書翻訳、４．宣教師近況・祈祷課題

「イムマヌエル教報 NO.832」
（イムマヌエル綜合伝道団）

１．福音に自らを問う、２．国内教会局の働き：全国の教会と共に祈りを篤くして、３．災害対策委員会の活動：常総市水害被害支援活動、４．ＪＨＡ創立30周年記念聖化大会、５．神学院での2つの行事：①信徒伝道者スクーリング、②ｵｰﾌﾟﾝ･ｷｬﾝﾊﾟｽ、６．海外トピックス、７．国内教会局から、８．創立70周年青年大会を振り返り 全国アンケートの考察と提言3、１０．燈台 過去への謙虚な思いを、１１．公報、◇広げた翼：世界宣教局、①ボリビア、②台湾、③ケニア・テヌウェク、④ザンビア、◇聖宣神学院報、１．どうしても必要な一つ、２．神学エッセー：世界から世界へ、３．後期の学びが始まります

「ＪＨＣ Revival 805号」
（日本ホーリネス教団）

１．「教団委員」の重責、２．「視」～過去を、今を、未来を～、３．世界に仕える教団・学院、４．宣教を考える：教育局―その②、５．温故知信：信越教区の源流を尋ねて：茨城教区、６．2015年度 全国秋季聖会報告：①東北聖会、②武毛聖会、③第26回千葉聖会、④四国聖会、７．YOUTH JAM.2016、８．宣教局ニュース：国内宣教「ぜひコーチング・セミナーへ」、９．追悼 故中居栄子師を御国へ送って、１０．教団本部ニュース

「ＪＣＣＪtimes NO.756」
（日本イエス･キリスト教団 時報）

１．キリストの体として共に成長する教会、２．ビジョン2021、３．協力教会制度、４．青年リトリート、５．教区だより：①関東教区、②信越教区、③京都教区、④大阪教区、⑤兵庫教区、⑥四国教区、⑦中国教区、６．公報・消息

「アッセンブリー News NO.722」
（日本アッセンブリーズ・オブ・ゴット教団）

１．一つを願う、２．教団の動き64、３．三浦金一郎師引退、４．中央聖書神学校（ＣＢＣ）掲示板、５．新刊販売!! 『聖書の祈りが私の祈りになる』、６．第40回記念 全国聖会の3日間、７．読者の投稿広場(3)、８．神による希望、９．教区情報Vol.11：北海道教区

12月

「教団新報 NO.4831 12/5」
（日本基督教団）

１．宣教協力団体としての連帯福音宣教会、２．救援対策本部会議、３．在日韓国朝鮮人連帯特設委員会、４．教団教誨師会研修会・教区代表者会、５．教師委員会、６．「障がい」を考える小委員会、７．社会事業奨励日メッセージ、８．ＰＣＴにて災害支援についてワークショップ、９．伝道のともしび、１０．部落解放沖縄キャラバン2015、１１．人ひととき

「教団新報 NO.4832・33 12/19」
（日本基督教団）

１．クリスマスメッセージ「羊飼いの夜に」、２．「マイノリティ問題と宣教」国際会議開催、３．東京教区・東地区　伊豆諸島伝道委員会、４．広報センター委員会、５．委員会コラム：

教育委員会、６．伝道のともしび：被災地のただ中にある教会として、７．人ひととき

「キリスト教学校教育 NO.689 12/15」
（キリスト教学校教育同盟）

１．サーバント・リーダーの育成、２．第57回学校代表者協議会を開催、３．第57回中高研究集会、４．第10回全国聖書科研究集会、５．東北・北海道地区教研集会中高部会、６．関西地区新人教師研修会、７．大阪・釜ヶ崎で、８．キリスト教教育者物語36、37

「世の光 NO.783」
（日本同盟基督教団）

１．みどりご、平和の君、２．家庭教育部：夫婦セミナーの報告「第2回マリッジコースセミナー」、３．宣教研究所：ローザンヌ運動40周年企画　教会と福祉(前編)、３．信望愛：神を畏れる公同礼拝、４．教会支援部：東京宣教区キャラバン委員会の恵み、５．献身の証し、６．恵流：①米寿の恵み、②神様に感謝、７．教会紹介：中野教会、８．宣教区：関西宣教区紹介、９．教団ニュース、◇ 国外宣教 NO.466、1.教会、宣教区、宣教地を結ぶネットワークを、２．現代モンゴル語聖書翻訳事情、３．宣教の裾野の広がり、４．宣教師近況・祈祷課題

「イムマヌエル教報 NO.833」
（イムマヌエル綜合伝道団）

１．キリストの謙卑と私たち、２．クリスマスの霊想「クリスマスのシンボル」、３．教会学校部から：「教会学校さんびか」お待たせしました、４．教団運営委員会から：多岐にわたる検討事項を審議しました、５．教団創立70周年青年大会を振り返り：他教団との連携を「協働とカルト対策」、６．海外トピックス、７．国内教会局から、８．追憶：①故佐竹静先生、②故田辺淑子先生、③故見積孝子先生、９．ＪＥＦ理事会報告、１０．公報、◇広げた翼：世界宣教局、１．台湾、２．ボリビア、３．ザンビア、４．フィリピン、５．ケニア・テヌウェク、◇聖宣神学院報：１．クリスマス、ホッと一息、２．神学エッセー：「説教とは何か」を求めて、３．充実した後期の学びに、４．同窓生の近況、５．神学院スタッフー恵みの想起、６．学苑だより

「ＪＨＣ Revival 806号」
（日本ホーリネス教団）

１．「宣教師の帰国と派遣」、２．「視」～過去を、今を、未来を～、３．ネヘミヤプロジェクトのこれから　世界に仕える教団・学院・教会、４．宣教を考える：教育局－その③ 賛美の遺産の継承、５．温故知信：千葉教区の源流を尋ねて（前篇）、６．明日への種まき：千葉教区における取り組み、７．2015 クリスマス特集:①暑い（熱い？）クリスマス、②分かち合いたいこの喜び、８．総務局だより ブロック長・教区長会議報告、９．第4回人権対策室・ＳＨ防止相談室合同公開研修会報告、１０．財務局だより、１１．学院から、１２．宣教局ニュース（国外宣教）、１３．教団本部ニュース

「ＪＣＣＪtimes NO.757」
（日本イエス･キリスト教団 時報）

１．良きわざを始められた方、２．ビジョン2021、３．協力教会制度、４．第49回 教団牧師研修会、５．教区だより：①東北教区、②関東教区、③大阪教区、④兵庫教区、⑤中国教区、⑥四国教区、６．公報･消息

「アッセンブリー News NO.723」
（日本アッセンブリーズ・オブ・ゴット教団）

１．クリスマスプレゼントは神の愛、２．教団の１．動き（65）、３．理事長だより、４．特集：神さまからのクリスマスプレゼント、５．God Jul!、６．秋の教区聖会レポート、７．新・祈りのコラム⑰、８．教区情報 Vol.12：データで見るアッセンブリー教団

キリスト教大学・神学校のニュースから

10月

「神戸ルーテル神学校 135号・後援会ニュース 123号」

１．「神戸ルーテル神学校の将来」、２．「今秋11/2 の召天者記念礼拝・集会の開催にあたり」、３．新約聖書エンジョイセミナー、４．『預言書を味わう』ご紹介、５．図書館だより、６．神学校ニュース

「HBI 学院通信 NO.80」
（北海道福音伝道会・北海道聖書学院）

１．「主の山には備えがある」、２．献身の証し、３．2015 年度夏期伝道実習、４．学生募集要項

11 月

（日本聖書神学校 学報 第 150 号）

１．神の新しい創造の時、２．理事会報告、３．財政問題説明会開かれる、４．卒業生研修会、５．全校修養会、６．夏期伝道実習報告 奄美諸教会、７．2015 年度オープンキャンパス

「学院だより NO.370」
（東京聖書学院）

１．御言葉によるリフォーム、２．夏期伝道に遣わされて、３．ネヘミヤ・プロジェクト第 1 章　今夏、寮改修工事始まる。そして完成、４．水間照弥師の退任記念講演会に出席して、５．卒業生・ＯＧのページ　思い出と期待と、６．2015 夏季ワークキャンプの報告、７．東北教区 三沢教会訪問記

12 月

「東京基督教大学大学報　150号」

１．研究倫理が問われる時代に、
◇ 特集 ＡＣＴＳ－ＥＳ（アジア神学コース）：①入学者の変化、②進む日本の大学のグローバル化の中で、③留学生とともに、④実習教会の様子、⑤グローバル化する社会とＴＣＵの使命、２．キリスト教福祉学専攻：①第5回ケアチャーチセミナー報告、②介護実習報告、３．国際キリスト教学専攻：①海外語学研修、②バイオラ大学短期留学報告、③留学生アドバイザー報告、４．神学科・大学院：①教会教職特別セミナー、②丸山忠孝先生の最後の講義、５．教会音楽：①賛美を補助する道具として、②夏期教会音楽講習会報告、６．ニュース：①ネパール救援募金のご報告、②東日本水災害ボランティア報告、③特別講義、④新任教員紹介、⑤2015年夏期伝道報告、⑥青木社長講演会、⑦シオン祭報告、８．卒業生からの手紙、９．支援会ニュース、１０．Information

「ｈａｒｖｅｓｔ　3号」
（日本長老伝道会 基督聖書学園 キリスト聖書神学校）

１．2015年度ＣＢＳ冬学期（1月～3月開講）のクラスのご紹介、２．『CBI での経験』、３．『ハート＆ソウル カフェの働き』、４．HEART＆SOUL CAFE の働きのご紹介

「校報　NO.80」
（神戸改革派神学校）

１．「牧師の持つべき資質・モラル＆常識－健全な教会を建てるためのバランス感覚－」、２．夏期伝道報告、３．神学校スポーツ交流会、４．神戸改革派・神戸ルーテル神学校合同神学シンポジューム

「聖ヶ丘通信 第 91 号」
（新潟聖書学院）

１．「まだ若いと言うな」、２．学院性の証し、３．近況報告、４．院長室より、５．学窓ニュース

各学術雑誌の記事から

「日本の神学 54　神学年報2015」
（日本基督教学会・2015.9）

「講演」聖書的伝統としてのキリスト教、
[論文]１.あらゆる否定文はすでに神に取り憑かれている、２．ジェームス・ファウラーの信仰発達論における「究極的環境」、３．イエス・キリストの信実か、イエス・キリストへの信仰か、４．日本における礼拝指針の系譜、
【シンポジウム】「キリスト教研究の可能性」

「改革派神学　第42号」
（神戸改革派神学校・2015.10）

《巻頭言》戦後70年の節目に、**[論文]**１．「ハイデルベルク信仰問答」の成立と構造－特に聖餐論を中心に－、２．ハイデルベルク信仰問答とオランダ改革派教会、３．歴史批評の終焉か？－ポストモダン的聖書研究の台頭－、４．二つの異なる教会政治は共存可能か－日本キリスト改革派教会における、長老派と改革派の教

会政治の方法論的緊張関係、【講演】教会形成としての牧会ール・シャンポン改革派教会の実践に学ぶー、【研究ノート】宗教改革期イングランドにおけるプロフェサイイング研究序説

「教会の神学　第22号」
（日本キリスト教会神学校・2015.10）

《始業講演》嘆きの詩編と礼拝の課題、《聖書・教理の公開講座》１．新約聖書「福音書」、２．教理「神論－三位一体論」、《ｶﾙｳﾞｧﾝ・改革派神学研究所 講演》カルヴァンの『詩篇註解』における敬虔の修練について、《論文》ダビデを記念して（一）

「聖書と精神医療 Vol.34」
（聖書と精神医療研究会・2015.10）

特集：不寛容な（？）時代とストレスマネジメント、１．ストレスからの解放、２．ストレスと付き合う、３．休職診断書を求める人たち、４．ストレスマネジメントと「静まり」～その必要性と目的を見定めて～、５．魂への配慮とは何か、６．病を担う限界と展開、７．若者の関係性とネット依存、８．自立と共生を考える～映画「かがみ」を通して見えるもの～、９．「恐れ」について、 ◇**書評**：平山正実著『死と向き合って生きる』

「宗教研究 第89巻 第384号」第3輯
（日本宗教学会・2015.12）

◇ **論文**：１．日蓮遺文の真偽、２．「渇仰の貴賤」の信仰としての如来教、３．明治30年代における「修養」概念と将来の宗教の構想、４．インドにおける「サティー」の観念の現代的再解釈、５．イスラームにおける宗教多元主義、６．ピーター・Ｌ・バーガーの初期神学

「日本宣教ニュース第６号」の巻頭言に対する応答

◎「日本宣教ニュース第６号」の巻頭言、篠原基章「宣教の神学から考える神学教育」に対し、グレースシティー・チャーチの福田真理氏とハイロック教会牧会スタッフ、ゴードンコンウェル神学大学院修士課程(M.Div)在学中の武田考平氏から、FB で以下のような応答をいただきました。ご本人の了解を得てやり取りの一部を紹介させていただきます。

◆

福田真理氏：「包括的」であることは、「宣教的」であるために重要だと思いますが、十分に包括的ではないことがひとつの課題なのだと思います。例えば、仕事や経済市場における宣教はほとんど取り扱われていません。教会開拓も日本ではほとんど研究されていない（実践はされていますが）分野の一つでしょう。宣教における社会的責任の取り扱い方も、かなり狭い範囲にとどまっていると感じています。宣教的共同体（教会）は、共通善に関して、福音による対抗文化を提示しなければならないと思います。

さらに、「包括的」であっても必ずしも「宣教的」にはならないと思います。課題の一つは福音理解の深さと広がりが不十分だからではないかと思います。最近 N.T.Wright に関心が寄せられたり、スコット・マクナイトという方の「福音の再発見」という著書が評判になっていますが、それらはつまるところ「福音」をどう理解するのかと
いうことですよね。ここに Tim Keller も加えられるべきだと思います。おそらく、「文脈化」についても再考される必要があると思います。宣教学の概念とされていますが、都市における教会開拓においても重要なポイントです。教会は文脈化にもっと関心を払うのでなければ、「宣教的」にミニストリーを行なうことが難しいかなと思います。「文化」の問題もどのようにとらえて宣教的に取り扱うのかが問われていると思います。

武田 考平氏：アメリカ教会で牧会をしていると、mission（ミッション）を「宣教」と訳することに違和感を感じます。私だけかもしれませんが、「宣教」と聞くと「教えを宣べ伝える」、あるいは、いわゆる「伝道」（evangelism）という側面が強調されているように聞こえますが、本記事でも２通りで訳されているように、mission の意を考えるならば「神からの使命」、「神の指令」というような広義的、あるいは包括的に捉えるのがむしろ自然なのではないでしょうか。

一方、アメリカでは mission と evangelism には、明確なイメージの違いがあります。前者は直接的な福音伝道だけでなく、社会におけるあらゆる福音的活動（貧困、人種、教育、医療、ビジネス　etc）を指し、後者は文字通り、福音を直接的に伝える伝道活動を限定的に指して用いる場合が多いような気がします。つまり、「宣教」と言う日本語の言葉が持つニュアンスが「mission」という言葉の意図することに若干の差異がある自体、日本において教会や神学の意義を考える際に影響を与えているのではないでしょうか。

missional な教会や神学教育を考察する上で、福田先生の言われる通り、最も重要となるのは福音理解であり、それを日本においてどのように incarnate するのか、文脈化に関する建設的な議論を十分に持つことは、強調してもしすぎることはないように思います。

何でもアメリカが先進的であるという発想は短絡的で誤りですが、神学校教育（特に実践神学）や地域教会において、社会に対して福音の影響を与えようとする意識が高く、missional であることに関する議論や具体的な取り組みが非常に盛んであるように思います。ゴードン・コンウェルの「職場における神学と職業倫理に関する研究所」、Mocler Center もその一つです。まずは、日本において、福音や文脈化に関してどのような理解、議論がなされているのか、ぜひ謙って学びたいと思います。

あとがき

2016年、明けましておめでとうございます。「日本宣教ニュース」も2回目の新年を迎えることができ、感謝致します。

「日本宣教ニュース」が皆様にどのように読まれているのかよく分からずにいますが、今回号からキリスト教系の新聞記事の掲載を一方的に取り止めさせていただきました。ご了承ください。

日本宣教リサーチとしては、昨年、宮城宣教ネットワーク、ＪＥＡ、アジアンアクセス、ホイートン大学との共同による「震災と信仰調査」プロジェクトとして、宮城県の被災地における宣教活動を対象とした調査を行う貴重な機会が与えられました。今年は、それらの調査結果をまとめて、出版される予定です。そして、現地の教会からは、さらに調査を継続して欲しいとの要請もいただいています。

日本宣教リサーチが、こうした調査活動にもさらに用いられる働きができるよう、尽力していきたいと思っています。日本宣教リサーチの働きのために、引き続きお祈りとご支援をいただければ幸いです。

本年も、よろしくお願い申し上げます。

（初穂）

東京基督教大学　国際宣教センター｜2015 年度冬学期　教会教職特別セミナー

2015 年度、日本宣教リサーチでは宮城宣教ネットーワークと連携し、アジアン・アクセス、日本福音同盟（ＪＥＡ）、ホイートン大学との協力による「被災地信仰調査プロジェクト」を実施してきました。これは震災の体験が、入信・信徒の信仰・支援者などにどのような影響を与えたかについてのアーカイブスを残る試みです。アジアン・アクセスのヒューーレットえり子氏が質的調査を、日本宣教リサーチ専門委員の柴田初男氏が量的調査を担当し、調査を進めてきました。その成果は 11 月に松島で報告され、今年９月の日本伝道会議でも報告される予定です。その中間報告を教会教職セミナーでしていただきます。ご期待ください。

研究科委員長　山口陽一

日　時　2 月 1 日(月) 13:00-15:30

テーマ「震災と信仰調査報告会 ～被災地から学ぶ日本宣教のあり方～」

被災地の宣教活動や、アンケート調査から、日本宣教のあり方を考えます。

発題者

被災地の人たちが、どのようにして信仰に導かれたのか、インタビュー調査をご紹介します。

柴田　初男
（国際宣教センター日本宣教リサーチ）

ヒューレット柳澤えり子
（アジアンアクセスリサーチフェロー）

会場：東京基督教大学 国際宣教センター

※本セミナーは、米国の John Templeton Foundation の助成を受けて本学で 行われる「震災後の日本における宗教的ミニストリーの理論と実践」プロジェクトの一環です。

お問合せ・お申込み

受 講 料	2,000 円（支援会員：1,000 円　※当日入会可）
申込内容	①氏名 ②電話 ③E-mail ④所属教団・教会名
申込み先	E-mail：fcc@tci.ac.jp　FAX:0476－31－5521
申込締切	1 月 27 日(水)
連 絡 先	0476－31－5522

感謝のご報告と継続支援のお願い

教会インフォメーションサービス（CIS）の働きを引き継ぎ、日本宣教の基礎的研究を行うことになった日本宣教リサーチ（JMR)は、この4月で発足から2周年を迎えようとしています。CIS の支援者が継続して JMR をご支援下さったこと、新しい支援者も加えられたことを感謝いたします。前回、9月末現在の収入予算達成率が20％未満ということで、ご支援の依頼をいたしましたが、12月末現在、50％を超えましたこと、ここに、感謝をもってご報告いたします。

2016 年は、「震災と信仰調査」の継続とともに、新たに 9 月に開催される日本伝道会議の「宣教 170 ▸ 200 プロジェクト」に参画し、『宣教 200 年に向けた日本宣教の現状と展望』の資料作成を担当致します。

どうかこれからの日本宣教リサーチの働きにご期待くださり、**更なるご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。**

【賛助会員】「日本宣教リサーチ」の活動は、東京基督教大学に寄付される指定献金によって賄われます。会員には一般賛助会員と特別賛助会員があります。各会員の要件と提供される成果物は以下の通りです。

（1）特別賛助会員：趣旨に賛同し、支援してくださる教団・教派、宣教団体等
- 一口 30,000 円（何口でも）
- シンポジュームや研究会・研修会等の開催をご案内します。
- 毎年 2～4 回「日本宣教ニュース」を提供します。
- 毎年 1 回「日本宣教に関する現状と分析」のレポート（詳細篇）を提供します。

（2）一般賛助会員：日本宣教に重荷と関心を有する個人、教会等
- 一口 2,000 円（何口でも）
- シンポジュームや研究会･研修会等の開催をご案内します。
- 毎年 2～4 回「日本宣教ニュース」を提供します。
- 毎年1回「日本宣教に関する現状と分析」のレポート（概要編）を提供します

日本宣教リサーチへの支援金は、税制優遇措置が受けられます

TCU への寄付金（献金）は、税額控除制度の認定を受けているため、税制上の優遇で還付金が最大で寄付金（献金）額の約５０％となります。

（詳しくは、☎0476-46-1131「TCI 募金係」までお尋ねください）。

郵便振替口座：00110-5-575648　学校法人　東京キリスト教学園明日の宣教者育成募金

＊ お振込みの際には、**本学発行の振替用紙に「日本宣教リサーチ 指定」と必ずご記入ください。**（振替用紙がお手元にない場合はこちらよりお送りいたします。）

東京基督教大学 国際宣教センター

日本宣教リサーチ

【Japan Missions Research】

〒270-1347　千葉県印西市内野三丁目 301-5

学校法人 東京キリスト教学園　東京基督教大学 国際宣教センター内

TEL：0476-31-5522　FAX：0476-31-5521　E-mail：jmr@tci.ac.jp

http://www.tci.ac.jp/institution/fcc/jmr

日本宣教リサーチ代表　　山口　陽一（東京基督教大学大学院神学研究科委員長）

日本宣教リサーチ専門委員　柴田　初男、　花薗　征夫